

道

*m i c h i*



7

2023 No. 62

世界救世教 明主様と聖地に直結する会

## 霊界の審判

そもそも人間は、現世において人類社会のため与えられたる天職使命を完全に遂行すべきであるにかかわらず、(中略)不知不識の裡に悪に属する行為を重ねるため、それが罪穢れとなって霊体に曇りが堆積する。したがって死後霊界人となるや、その罪穢れの払拭が厳密に行われるのである。(中略)

本来霊界の構成は大体九段階になっており、天国は三段階、八衢が三段階、地獄が三段階である。死後普通人は八衢人となるが、極善のものは直ちに天国に昇り、極悪のものは直ちに地獄に墜つるのである。それは死の状態によって大体の見当がつく。すなわち天国や極楽へ往く霊はおよその死期を知り、死に際会していささかの苦痛もなく、近親者を招き一人一人遺言を為し平静常のごとき状態で大往生を遂げるのである。それに引き換え地獄行の霊は死に直面するや、非常な苦悩に喘ぐ、いわゆる断末魔の苦しみである。また八衢行の霊は普通の死の苦しみ程度である。(中略)

まず八衢行の霊から説明するが、死後八衢へ行くや三途の川を渡るのである。その際脱衣婆なる役人が着衣を調べる。白装束ならよいが普通の着衣は白衣と替えさせる。その際橋を渡るといふ説と、橋がなく水面を渡るといふ説がある。ただし後者は川に水がなく龍体が無数に川中に紆っていて、それが水のごとく見えるというのである。そうして橋を渡り終わるや白衣は種々の色に染まる。すなわち罪穢れの最も多いものは黒色で、次が青色、紅色、黄色という順序で、罪穢れの最も少ないものは白色ということになっている。(中略)また閻魔の帳面の記録によって大体の下調べを行うのである。(中略)審判によって判決を与えられ、それぞれの天国または地獄へ行くのである。故に六道の辻とは、その名のごとく、極楽行きも地獄行きも上中下の三段二道で、その辻になっているからである。そうして地獄行きと決まった霊は一時八衢において修行をさせ、霊の向上を計るが、それによって改過遷善の者は地獄行きとならず極楽行きにふりかえられるのである。その際の教導者は、現界におけると同様、各宗教の教誨師が死後そういう役を命ぜられるのである。八衢における修行年限は大体三十年となっており、それまでに改心できないものはまったくの地獄へ墜ちるのである。また霊体の罪穢れに対し、その遺族が誠心誠意懇ろなる法要を営むとか人を助け慈悲を施し善徳を積むことによって、それだけ霊の浄化は促進されるのである。この理によって親に孝を竭し、夫に貞節を捧げる等は、現世よりもむしろ死後における方がより大きな意味となるので、慰霊祭などは霊は非常に喜ぶのである。(「天国の福音」昭和22年2月5日)



重要文化財 浄瑠璃物語絵巻 伝岩佐又兵衛 江戸時代(17世紀)  
MOA美術館所蔵

又兵衛筆とされる絵巻群中、最も色彩の華麗な作である。物語は義経説話の一つで、奥州へ下る牛若と三河矢矧の長者の娘浄瑠璃との恋愛譚を中心とした内容である。『浄瑠璃物語』12段の正本(テキスト)そのままを用いた詞により、牛若の衣裳模様や女房たちの局の襖の画題、浄瑠璃姫の寝室の調度、二人が交わす大和言葉の逐一まで、綿々と語られており、それらの場面が、金箔・金銀泥・緑青・群青・朱など各種の高価な顔料を惜しげもなく使い、艶麗な色調で描かれている。画中の人物描写が又兵衛風といわれる豊頬長頤の特徴をもつなど、本巻も又兵衛を棟梁とした工房作と見るのが妥当であろう。 津山藩松平家伝来。

(MOA美術館・箱根美術館 名作美術品カレンダーより)

## 《目次》

代表挨拶	4
感謝奉告①②③④	8
七月度聖地行事・ご面会・月次祭	14
いづのめ教団信仰体験記	16
感謝奉告⑤⑥	18
シリーズ明主様(5)青年時代	20
聖地NOW	22
21世紀を生きる(9)	23
新シリーズ《幸せの種まき》	26



令和5年 課題

われよしの 心浄めて ひとよかれと

祈る心は 神に通へる

く明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩むく

## 代表挨拶

西村 正資

あめがした 天ヶ下 生きとし生けるものみな

えら よろこ 天國造らむ 歡ぎ喜ぶ

(昭和二六年七月二五日 明主様詠)

本格的な夏を迎えましたが、皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

社会では、七月の花は、ひまわりに代表されるように、カラフルで、力強く、見ているだけで元気をいた

だく”と言われるようです。聖地を見渡すと、ひまわりこそありませんが、山百合を始め、名も知らぬ小さな草花があちこちに咲き、彩り、いつも以上にエネルギーを感じる瑞雲郷を感じます。

「博物館浴」(NHK 令和五年六月一日放送より)

NHKニュース「おはよう日本」の中で、九州産業大学美術館緒方泉教授が取り組む「博物館で作品を鑑賞することで、癒し効果・健康増進などに活用しようという研究」に関して、その内容が紹介されました。

被験者一二人の学生の血圧、脈拍、そして疲労度や精神状態を測定し、美術品鑑賞二〇分後に再度測定すると、すべてにわたって有意な改善が見られたのです。これまでおよそ40の博物館で五〇〇人余りのデータを集めて、その効果を明らかにしたいと述べています。

この実験を見学した、中部国際医療センター山田実貴人副病院長は、「副交感神経が有意になっている」「頭の活性化にもなり、リラックスするものになっていくのでは」と。

美濃加茂市民ミュージアム可児光生館長も、「禅画展覧会で、穏やかになることが数値として表された。博物館や屋外の展示コースが、市民の健康にも寄与できると思う」と期待感を述べています。

カナダモントリオール美術館では、美術館と医師会が協力。摂食障害や言語障害など様々な精神的症状に悩む患者に治療の一環として美術館に行くよう指示し、美術館が処方箋というプロジェクトを行っています。

美しいものに触れることで、人の精神性から健康までも向上するということが、医学的、科学的にも実証されつつあり、今後研究のさらなる発展と社会における活動の進展が楽しみです。

聖地は、美術館を基幹とし、自然と人工の総合美

このように、美しいものに触れることで人の魂が蘇り、人格の向上が促されるということは、七〇年前すでに明主様からみ教えいただいています。

『現在地上天国を造りつつあるが、この構想はあらゆる自然と人工美を総合調和させたもので、今日まで何人も試みたことのない画期的新芸術品であろう。これによって万人神意を覚り、人生の歓びを深からしめ、心性の向上に大いに役立たせんとするのである』

(天国的宗教と地獄的宗教 昭和二六年一〇月二四日)

『ここに来れば、霊界が光ってますから、そこで副守護神が弱るのです。だからここに来さえすれば良い』

(講話 昭和二七年七月六日)

社会ではその効果を実証しつつありますが、残念な

ことに、なぜそのような良い結果をもたらすのか。それを究明するまでには至っていないようです。

明主様は、そのことを美のもつ靈性だと示されています。特に聖地には、最高神がお鎮まりになります。天国理想郷の雛型としての使命があります。世界が認める最高の美術品が展示され、社会の安寧と人々の幸福への祈りが込められ、多くの人の喜びと感謝が集まる聖地の輝きは、集う人々の魂の疲れを癒し、生命力をよみがえらせ、本然の姿に立ち戻すのだと教えられました。み教えを拝読し、確認されてみませんか。

伊・ボローニャ大学「美の講座」で神仙郷紹介

この度、そのことを改めて確認する素晴らしい報告がありました。

今年五月に開催された表記講座において、国立奈良文化財研究所所長の本中眞先生が、「文化財 名勝神仙郷について」と題して、基調講演を行われました。先生は、造園学の権威であり、現在文化庁の主任文化調査官として、名勝及び世界文化遺産の保護活動にも参加されています。

講演では、神仙郷の特徴を「自然と人文的なもの、これが総合されたもの」として紹介され、その価値として、

「世界救世教教祖岡田茂吉師の平和への希求、地上天

国の雛型として作庭。明るさに満ちた近代の日本庭園であり、早雲山の山並みとはるかな相模湾の水平線を展望できるように意図されている。巨石群と溪流。すべてこの斜面地に残されていたものそのまま利用。このような立地とデザインの庭園は、日本全国探しても見つからない。神仙郷固有のものである」

「巨岩は露出をそのまま活かして利用、火山を利用した迫力ある庭園。日本庭園の石組みの原点があり、芝で覆われたおおらかさがある。京都西方寺庭園、一四世紀がもつ荒々しさと二〇世紀以降の庭がもつ洗練された風情」

「回遊式庭園でいえば、桂離宮と相通じる」

「国内の他庭園に見られない、独特な秀逸な日本の美と文化の総合的発信享受の場としての空間」

「歴史的資料から、建築や作庭の過程をつぶさに証明することが可能になる事例としても稀有である」と、高く評価され、紹介しています。

そして、最後に「合理的で緻密な管理手法を丁寧に継続することで、風景を良好な形で維持してきた世界救世教信者のご奉仕と庭師職人の地道な参画があったからである」と語られ、先生ご自身「七〇八年前、初めて訪れ、こんな素晴らしい庭が。日本庭園の神髄があった。生きていると感動した」と締めくくられました。

先の地上天国祭は、神仙郷完成七〇周年の記念すべ

き祭典でした。このような時、私は外部識者から、明主様の超人的凄さと聖地のもつ意義、そして、参拝の大切さを改めて考えさせられました。また、その聖地に関わる一員として、大きな喜びと誇りを感じました。同時に「明主様」「聖地」と、常日頃語っている自分が、果たしてどこまで正しくかつ具体的に、その素晴らしさを認識していたかを反省しました。

### 名勝を支える信徒の誠

本中先生は、講演で信徒の誠の奉仕まで、お庭の霊域から感じ取られ、称えて下さいました。「明主様のご功績とそれをお支えする信徒の誠心の集積が無ければ、どんな素晴らしいものも、輝きを失う」と。そこまで見通されてのお話でした。

日光殿や山月庵修復も終わり、観山亭の修復工事も始まります。ささやかな私どもの誠も、世界が認める名勝としての聖地と共に、後世に引き継がれていくことを実感し、誇らしく感じます。

今年一月三日〜四日「聖地一泊奉仕研修会」が、瑞雲郷で開催されます。未来の世界を写し出す雛型聖地に、私達の祈りや誠をしっかりと込めさせていたただきたいと願っています。

『道』六月号の感謝奉告より学ぶ

岩見沢グループIHさんの感謝奉告です。令和三年健康診断で前立腺癌の疑いと診断され、後日入院しての再検査となりました。様々なことが不安として思い浮かび、心穏やかでない日々を過ごしている時、地域の信者仲間が浄霊に来て下さり、また、聖地にも直ぐに祈願依頼をして、励まして下さったようです。結果、癌の疑いは消えました。

今年、雪かき中に脊椎圧迫骨折した時、次男が仕事に悩み通勤できなくなった時、お孫さんが入院された時も、地域の信者さんが、直ぐに駆けつけ、浄霊を取次いだり、聖地に祈願を依頼して下さっているのです。

信仰仲間の存在は本当に有難いです。普段から、仲間を大切にしなければなりません。周囲に心を配り誠を尽くし、支え合いの輪を大きく造るといふことも、地域の天国づくりの大切な信仰実践ではないでしょうか。IHさんの周囲では、一人の苦しみを聞いた仲間が我がごとのように受け止め、そして取り組み、ご守護を許されているように思います。

私を知る北海道は、本当に広大な土地です。市街地から一歩出ますと、家と家の距離が、とてつもなく大きくなります。IHさんの信仰環境は、随分以前から布教施設も無く、専従者も居なく、近所に信仰仲間も

居ない、普段は孤立無援状態と言つてよい程です。しかし、当地の皆様は、孤立しているからこそ声を掛け合い励まし合い、可能の限り互いに助け合う信仰を培われ、その中で大きなご守護をいただいています。

厳しい信仰環境を「利他愛」「思いやり」という信仰実践で見事に克服されているように感じています。私もつい物理的条件の良し悪しを見つめ、他を羨んだりすることがあります。しかし、神様は一切をご承知です。与えられた環境でどのように努力をするのかということが大切です。人としての成長を促されるのです。自分を不遇と思わず、いつも前向きでみ教えに沿った積極的な行動を目指していきましょう。

今年後半の歩みが、始まりました。最近、人生という命を許された時の流れが、とても早く感じます。「今日は何曜日？何日？」と、周囲に問いかける時、私の認識はいつも数日遅れています。

後悔のないように、明主様御神業発展へのご奉仕をさらにお誓い申し上げ、そして、日々皆様のお顔を思い出し、ご健勝とご活躍をしっかりと祈りさせていたできます。

祖霊大祭八月一日、皆様の聖地ご参拝を、楽しみにお待ちしております。



## 感謝奉告 ①

### 聖地参拝と私

東大阪グループ MS

『できたら一年に一回か二回は聖地にこなければいけない』  
(昭和二六年一月一八日)

私のような信仰三世の信徒なら、物心がつく前から両親に手を引かれ聖地に参拝していたという方も多いのではないかと思います。そんな私は社会人になってからも聖地参拝だけは欠かさないようにはしていました。しかし、当時の主之光教団で行われていた春秋年2回の大祭は、日曜日に行われていたため、土日が休みでない職業に就いた私は、自分で事前にスケジュールを立て、それに合わせて聖地に行かせていただくようになりしました。それは大体、地上天国祭と御生誕祭に当たるが多かったように思います。初めの頃は、参拝が終わると直ぐに帰宅していましたが、せっかく聖地に参拝しているのだからと思い、ある年からは美術館に立ち寄るようになりました。

山蒼く 流れは清し宛らに

天国なるらむ 神仙の郷

救世教の聖地は、箱根の神仙郷、熱海の瑞雲郷、京都の平安郷の3つがあります。しかしその頃、私が参拝する聖地は熱海だけで、神仙郷に関するみ教え等を拝読する度に箱根への憧れは増すばかりでした。そんなある年、熱海での地上天国祭参拝後、意を決して箱根に行ってみることにしました。どうしても行ってみたかった箱根で得たものは、大変大きく、奥津城・祖霊舎・美術館・苔庭・日光殿・龍頭の滝など、見るもの触れるもの全てを新鮮に感じることが出来たのを、今でも覚えています。またこの日、忘れられない不思議な出来事も起きました。神仙郷内には「岡田茂吉の世界」という明主様のご生涯を紹介する施設があるのですが、その日、そこには明主様がメシヤ降誕仮祝典でお召しになられていた純白の衣装のレプリカが展示されていたのです。私は、明主様がメシヤ降誕仮祝典の際に純白の衣装に身を包み、お神輿に乗ってご出座されたという話を聞いていたので、その衣装を大変興味深く拝見しました。それと同時に、あることが脳裏に浮かびました。意を決して訪れた箱根でこのような貴重な展示を拝見することが出来たということ。それは、以前からずっと箱根を訪れてみたいと熱望してい



た私の心を、明主様がちゃんと汲んでくださり、心からお許しくださった、大変意義深い結果であったと気付かせて頂きました。

その年からは、同じように熱海の後に箱根へという参拝を何度かさせていただきました。別の年にはお庭を散策していると、ある建物の前で案内の方に、しきりにその建物に入るように勧められたことがあります。私は、訳も分からず言われるがままに中に入ってしまったのですが、何とそこは普段は一般公開されていない神山荘だったのです。偶然にも私は、その内部公開に声を掛けていただき、明主様が箱根神仙郷建設の拠点とされていた神山荘を拝観させていただくことが出来、これもまた、大変貴重な体験をさせていただくことが出来ました。他にも箱根美術館の三階に和室があることを知った私は、どうしてもその和室を見てみたいと思っていました。当時中々実現が許されず、ある研修会が箱根で開催された際に、ようやくその念願が叶ったというエピソードもあり、箱根は私にとって色々と思いが詰まった聖地になっています。

### 信仰の 真髄こそは礼節を

守るにありと 知れよ信徒

熱海事務所5階での参拝後、救世会館に行かせてい

ただくこともよくありました。当時の主之光教団の祭典は、結構淡泊に終了することもあり、その後、救世会館に行かせていただくと、いづのめ教団の参拝はまだ終了しておらず、だいたい理事長先生のお話の時間で、当時の渡辺哲男理事長先生や小林昌義理事長先生のお話を聞かせていただくのを楽しみにしていました。

ただ、残念な光景を目の当たりにすることもありました。平成二九年一二月二三日の御生誕祭の日も私は救世会館に行きました。するとその日もちようど小林先生のお話が始まる頃でした。しかし何と話を聞かず大勢の信者さんが参拝席から退席されてしまったのです。私にはあまりにも突然の出来事で一体何が起きているのか全く理解が出来ませんでした。この出来事は今の教団浄化と深くつながっていて、退出された方の多くはメシア教に行かれたものと推察されます。明主様の御生誕をお祝いする神聖なる祭典の最中に申し合わせて参拝席から退出するという様な行為は普通なら理解し難く、いかなる理由があるにせよ大変礼節を欠く行為である様に思え、私自身大変心が痛んだのを今でも鮮明に覚えています。

### 平安の 文化を生みし中心は

此辺りなりと 聞きし嬉しさ

もし毎月聖地に参拝が許されるとしたら、どれだけ素晴らしいことでしょう。そのような思いを以前から持ち続けていました。しかし、関西から箱根や熱海に行かせていただくのは時間も旅費もかかり、どうしても月参りさせていただくことは現実的に大変難しいものであると思っていました。そんな私は、今年の二月から毎月七日の平安郷月次祭に合わせて、平安郷に参拝させていただいています。今年からは、公式行事として春秋年二回平安郷でも大祭が執り行われるということなので、許される限りこの参拝を続けさせていたかどうかと思っています。

### 乾坤山 登りて安房の海遠く

#### 眺むる袖に 初夏の風

今年の六月一五日に私は鋸山に行かせていただきました。なぜか毎年、地上天国祭が近づくと鋸山に行きたいという思いが強くなってきます。しかし、中々実行は出来ず足が遠のいていましたが、二〇一四年以来九年ぶりでの成就となりました。千葉県房総半島も時折小雨が降るあいにくの雨模様でしたが、92年前に明主様が天啓を受けられた地を実際に訪れ原点回帰。自分自身のこれからの信仰を見直すいい機会を与えていただいたと心から感謝しています。

### 大いなる 歴史の節は近よりぬ 眼開きて 世のさまを見よ

今、世の中では紛争が続き凶悪犯罪が起き、それに加えて自然災害の脅威など私たちの生活を脅す問題が満ち満ちています。しかし、この様な世の中でも明主様を信仰する私たちは大いに違います。なぜか心の片隅に安心感を持つことが出来るのです。その言い知れぬ安心感の根源は何かというところ、明主様のご存在そのものではないかと思えます。私は聖地参拝とは、明主様より大きなお力をいただける場であると思っています。これからも明主様が残されたみ教えを自身の羅針盤として決して臆することなく、まごうことのない救世教の信仰の「道」を皆さんと共に歩んでいこうと思えます。



## 感謝奉告 ②

### 聖地直結の会に入会する前後

阿南グループ C M

和田先生が、「諸事情で退職」されると発表された時は、私を含め、多くの方が驚きました。「諸事情ってなんだろう？」先生に聞いても、「また話せる時が来る」と思いますと言われるだけ、「そんなもん？」とやけになって私の中ではやる気もなく、ただ喪失感のみが漂っていました。

そうするうちに五月半ばになって和田先生から「聖地直結の会に入ったよ」と連絡があり、和田先生が思いを届けてくださいました。それは、「世界メシア教について行けなくなったけれど、どうしても明主様の信仰は続けたいと思っている人で他にいく所がなくて困っている人たち(世界メシア教からすればついて行けなくなっておちこぼれになるのでしょうが)の力になりました」との思いで聖地直結の会に入りました」とのことでした。その和田先生の思いに賛同した人で、最初に聖地直結の会に入会したのは一四人になりました。

最初は集会場所も決まらず、和田先生と「公園のベンチで太陽の光のもとでするのもいいですね！」なんてことも話していました(笑)、が結局は駐車も6台可能な御宅で集会が許されました。「他にも教費の集計は誰がするのか？送金手数料はどうするのか？連絡体制は？聖地参拝のサポートはだれがするのか？等」不安は多々ありましたが、次々と比較的スムーズに解決していきました。

不慣れなため、教費等の提出書類の作成についても、聖地直結の会事務局の方々のサポートにも助けられ感謝しています。これからもよろしく願います。

## 感謝奉告 ③

### 私の心の変化と奇蹟 “主人の入信”

阿南グループ M S

九年前、長男(当時小五)は記憶がなくなっていく二歳児位の行動をするような浄化をいただきました。私たち家族は 長男を徳島大学病院で診察してもらったため、愛知から私の地元徳島の阿南の地に引っ越してきました。そして、毎日のようにご浄霊をいただいた



お蔭で長男は快方へ向かい、今では数年間の記憶は戻ってはいないけれど、元気に専門学校で学んでいます。

このようなご守護をいただいたのにも関わらず、私は月次祭のお玉串はしなくちゃいけないからするという考えで、参拝は行きたくないから母が代わりに代参をしてくれているというような状態でした。このような状態がしばらく続いていたのですが、今度は次男が立てないほどの腹痛に襲われ、救急車で搬送されました。原因は便秘だったのですが、迎えにきてくれた母が「嫌かもしれないけれど、私と一緒に布教所にお礼参りに行こう」と言いました。いつもなら「疲れているからまた今度」というのですが、その日は素直に行くことができ、その時に和田先生と面談が許され、先祖の大切さを教えていただきました。先生のお話を聞いて、私には使命があるのだと感じ、月次祭の代参はやめ、自分で布教所に参拝させていただくようになり、母とも信仰の話が増えていきました。

その年のことですが、体調で少し気になることがあり、病院へいくと肝臓と卵巣にポリープがあり小さいけど子宮筋腫もあると言われました。再検査までの毎日両親が私を前後で挟みサンドイッチ状態でご浄霊をしてくれました（メシア教時代でしたが）。二人に挟まれると私の中から何かポワッと外に引つ張られる感覚になりました。再検査の日二箇所のポリープは

消え、子宮筋腫は成長もしていないと言ってもらえてご守護に感謝しました。

それから、昔、病気が原因で赤ちゃんを断念したことがあり、その後、数回慰霊祭をしていたのですが、最近になって忘れてしまっていたことを思い出し、急いで布教所に向かったことがあります。和田先生が調べてくれたところ、なんとその日が二〇年目の命日でした。そのとき先生が、「お子さんが成人したことを教えてくれたのではないですか」と仰ってくださいました。心から赤ちゃんに謝り、守ってきてくれたことに感謝をし、涙したことを思い出します。

私は、世界メシア教から聖地直結の会に変わろうと決めた時から、以前よりも心に変化を感じるようになりました。み教えの拝読も自宅に御神体はありませんが、明主様を思い浮かべて朝拝と夕拝の時に拝読させていただき、家族への浄霊も自然とできるようになっていました。そして、なによりびっくりしたのが、主人の入信でした。私は子供にはご浄霊のお取り継ぎをさせていただけでしたが、主人にはご浄霊は一度もお取り次ぎをさせていたことはありませんでした。入信を勧めたことも一度もないのです。ところが私が聖地直結の会に入会する日は、すぐ近くの私の実家で先生のお話を聞いてから入会する予定だったのですが、私が実家に出掛ける五分前に主人と一緒に

## 感謝奉告 ④

きたい、「先生の話を聞きたい」と突然言い出したので、そして和田先生の話を聞き、先生の人柄にひかれ、その日のうちに主人は入信を決め、令和五年六月六日に主人はお光をいただくことができました。主人はまだなにも感じてないと言いますが、集会や山月教室にも参加させていただきました。私は主人が入信したことが奇蹟で先祖様たちのお働きがあつたのかなと思います。

昔からいろんなご守護をいただいていたのをこの度、改めて感じさせていただきました。子供達の浄化もすべて救いの中の出来事でした。そして聖地直結の会に入会して、より強く明主様を思えるようになりました。和田先生には、私がわからないことは何でもわかりやすく教えてくださったことに感謝でいっぱいです。これからもみ教えを拝読させていただき、みなさんと一緒に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



## 早朝の御用から生活リズムが改善

藤枝グループMH

箱根に参拝させていただきました。花がいっぱい供えられており、志太センターに花の奉仕をさせていただこうと思いました。あちらこちらにお花を生けるとと、お花に水をあげるために毎朝早くにセンターに行くことを決めました。

家の朝食、家事を考えるとどうしても朝早くなってしまいますが、6時にセンターについて水をあげるようになりました。生活がスムーズにいつているように思います。

地上天国祭前に車検に出していた車が、参拝前日の午後が届き、早朝決めていた時間に参拝できました。皆様にとっては当たり前かもしれませんが、私にとっては本当にご守護でした。家庭の中では、主人との相互浄霊が許されるようになり、本当に嬉しい日々が続いています。

明主様、ありがとうございます。



世界の神仙郷として動く箱根聖地



新文明創造に焦点を合わせた御神業の新体制が奉告された



自然災害・地球環境・食の課題に対して明主様の示された道の実践を誓う

北陸より「ひまわり」「ペチュニア」が奉獻。神仙郷70周年の節目として新しい出発を願う信徒一人ひとりの祈りが結集する。神仙郷から始る御経綸を世界に発信していくことは、人づくり、地上天国建設に望まれる明主様の強い願いの顕れに外ならない。



神霊の存在を知らしめる熱海瑞雲郷



令和5年度前半の奉告と後半の信仰実践を誓う



参拝が許されることへの感謝と人に尽くすことができることへの感謝の祈りを捧げた

世界では厳しい病や飢餓問題、そして戦争、テロが続いている。一日も早い終結を願い、信徒一人ひとりが真剣な祈りを捧げる。世界人類の安寧を願われた明主様。“今こそ私達信徒が、明主様の御力をもって人類社会に貢献を果たす時、と、祈りが膨らむ祭典が執り行われた。



## 前立腺がんの浄化を通じ、神様の愛に気づかされて

三河安城浄霊センター SH

七月度月次祭、おめでとうございます。

昨年、令和四年の二月初旬、碧南市民病院から「家族と一緒に来てください」と言われ、妻と一緒に医師の話しを聞くことになりました。半年ほど前から足に激痛がつづ

くために、近所にある係りつけの病院に行ったところ、この地域では大きくて有名な市民病院を紹介され、幾つもの検査をさせており、その結果を伝えられたのです。

その内容は、「前立腺がん」で、手術や抗がん剤の治療は出来ないほど進行している状態。しかも、リンパ線と骨、そして肺にまで転移

している。残念だが治らないので、ホルモン剤で進行を抑えることしかできない」と、伝えられました。見せられたPSAの数値は3000でした。これは、前立腺がんの目安を見る数値で、0から4までが正常、10を超えるとがんの可能性があると言われ、3000というのは異常な数値だそうです。

しかし私は不思議と不安が無く、怖くありませんでした。「そうか」と受け止め、「このまま霊界に行く前になにか良いことしないとなあ」と思うことができました。

実は、一年前に兄が大腸がんで亡くなっていました。兄は、生きることには強い執着心があり、病床での痛みが激しく、私は兄を見ていることが辛かったという経験がありました。私は明主様のみ教えを拝読し、兄の生きざまと照らし合わせていました。そのため私の中では、死に対する考えや生きることの使命など、整理して受け止めていたのかもしれない。

その「自分の死」を受け入れる覚悟があったからでしょう、数日後、浄霊を頂いている時に「生きているうちに良いことを何かやりたい」と思っていました。すると、どこからともなく「公園のトイレを掃除したらどうだ」と声が聞こえてきたのです。私の人生を思い起こすと、トイレの掃除に係わる因縁があることを思い出し、その声と重なりました。「そうか、トイレ掃除をさせていただこう！」と、早速、雑貨店でタワシや雑巾、バケツなどを購入し、公園の



トイレを探しました。家の近くの公園、仕事場の近く、少し距離の離れた公園、駅の公衆トイレなどを決め、その日から時間をつくり、トイレ掃除をはじめました。

はじめは「霊界へ行く前に何か良いことを」という気持ちだったのですが、続けているうちに、別の思いが沸きあがり、楽しくなってきたのです。その思いとは、きれいになつて行くトイレを見るたびに、自分の心や魂の汚れが取れて行くように感じられたのです。そう思うと、ひと拭きごと、またひと擦りごとに、トイレの汚れをとることで、自分の魂が浄まって行くように実感し、楽しくてたまらなくなりました。

さらに浄霊をほとんどしなかった妻が、私に浄霊を毎日取り次いでくれるようになりました。私がおのれのことをしようとする、「浄霊中ですよ」と、神様から御光をいただく尊い営みに向かう私の心を正してくれるのです。センターに行くときは「ちゃんと献金の準備はしたの？」と気にしてくれます。このように、私の浄化を通じて、妻の信仰が変わっていたのです。

そのような取り組みを3週間ほど続けた一二月二日に病院へ行きました。すると、前立腺がんの目安になるPSA値が300にまで下がっていたのです。医者も不思議がっていました。その頃から、もうひとつ心の変化がありました。それは、私の心の中に人を許せる心が芽生えてきたことです。接客業をしている私は、お客さまのひどい言葉や

不本意な態度に腹を立てることが度々あったのですが、御光をいただく中で、ひどいことを言われても気にせず流せるようになっていたのです。

「善き心 つとめておこせ重なれば いつかまことの善人となる」

いつの頃からか、この御歌を私の中で何度も何度も繰り返していました。

年が明けて一月の検査がありました。このころは足の痛みも少なくなっていました。なんとPSAの数値が3.6になっていたのです。4以下の正常値です。

今、これまでの人生の出来事をいくつも思いだします。五年前、兄に進められて入信したときのこと。学生時代は教会と一緒にあった陶器店でアルバイトをしながら、いただいた給与すべてを献金していたときのこと。そのころ、先生からは「浄霊を頂く前に、床とトイレを掃除して、大黒様をお磨きしてから」とご指導いただいたこと。妻との縁は、「前世での因縁を今生で精算するために結ばれたのだ」と思っていたこと。自分に起きていることは、霊界で起こったことが移写されて現われているということ。この体は神さまから頂いたものということ。

そのように、明主様のみ教えや、今までご指導いただいた先達の先生の言葉を次々と思ひ出しました。そして、浄霊をお取次ぎする時に、「病気を治すことを祈る」のではなく、「この人が、天国に住めるために魂をお清めください」



という祈りになっていました。地上天国に住むには、部屋をきれいにし、物を大切にすることで日常生活を送ることが大事だと改めて気付かされました。

二月二六日に三河安城センターで感謝祭がありました。そこで立春祭の杉原理理事長ご挨拶を学びました。今回、私が神さまから気付かせていただいたこの学びは、昼の霊界にあつた神さまのお働きに合わせてくださっているのだと、明主様の愛と神さまのすばらしさに対して感謝でいっぱいになりました。

三月一日、碧南市民病院で検査を受けました。医者からは「PSA値は0.73、リンパや骨、肺に見られたガンの半分以上が消え、その他も非常に小さくなっている」と伝えられました。医者は首を傾げ、しきりに不思議がっていました。五月の検査後には、「もう治療はしなくて良いので、これからの人生のことを考えなさい」と言われました。

私は今まで、信仰を人に伝えることに対して、消極的で躊躇することが多分ありました。しかし、今回あらわしてくださった神さまのお働きを体験させていただき、これからの私の人生には、神さまのみ救いの素晴らしさを多くの方にお伝えする使命があるように思います。

病気は完治しているわけではありませんが、一人でも多くの方が天国に住める御霊になるために、お使いいただけるところを使命と受け止め、御用をさせていただきたいと思えます。大神様、明主様ありがとうございます。

## 感謝奉告 ⑤

### 大神様、明主様はいつも傍らに

淡路グループ NT

一年以上前に、目眩めまいから始まり、喘息の症状があると言われ、頭痛が激しいので、診察に行くと、脳幹梗塞、他の脳の箇所にも出血があります。との事でした。

また、コロナに感染者し、自粛生活を余儀なくされました。自粛生活も明けても胸が苦しく痛むので、診察に行くと、肺気腫と言われました。このようにして日々の生活は一転し、不自由な生活となりました。

この一年間、聖地にご祈願をお願いしたり、その際にご指導をいただいたりしていました。

また、地域の信者さんに御祈願と遠隔浄霊していただき、近所の世話人さんには週に一、二回、先生には週一回、浄霊訪問いただいています。しかし、日々変化はなく一年が過ぎようとする頃、世話人さんから、「近場でする集会には参加してください。あらゆる面でサポートするから」と言われ、参加が許されました。

何回か参加するようになった頃、その世話人さんから「浄霊訪問一緒にさせていただきますよう。」と言わ

## 感謝奉告 ⑥

### 『明主様に倣いて』に学ぶ

藤枝グループ S M

『人を喜ばせることが好きで、ほとんど道楽のようになっっている』というみ教えに、最近思うことがあります。

まだまだ、不安や心配が残っていますが、前を向いて進んで行くしかないと思っています。また今回、感謝奉告をさせていただこうと決心した時、偶々、同級生から電話がありました。その同級生は他宗教を信仰していて、私も救世教を信仰している事を知っている間柄です。話の中で、「私が免許更新の時の視力検査が心配だったが、その時は良く見えて合格出来た」と話すと同級生が「神様が付いてるから」という言葉が返って来ました。私はハツと思えました。自分は長年、信仰してきたのに、「身近に神様がおられると感じた事が無かった。」という事に気付かされました。同級生は常に神様が傍にいらっしやるという事を感じて過ごしているんだと思いました。

これからは、「大神様、明主様は自分の直ぐ傍にいて、見守って下さっている」と、「明主様ならどう思われるか!!」という事を、常に考えながら日々過ごさせていただきたいと思えます。と同時に、み教え拝読をさせていただきながら、自分の血肉とさせていただきたく思います。

大神様・明主様ありがとうございます。

私はマンションの3階に住んでいます。マンションにはお掃除担当のパートさんがいます。階段や通路を掃いてきれいにしてくれるのですが、丁寧にはしてきれなくて、排水口などはゴミが詰まり気味で困っていました。声をかけたことがあって、その時は怒った顔で返事をされました。とにかくきれいになればと私がやりだしました。心の中では、パートさんに対して不満があるのですが、きれいになればと掃除をつづけました。そんなとき、娘は私に「きつとステキなごほうびをもらえるよ」というのです。ハツと我に返りました。不満ながらに掃除をしている自分はずかしくなり、明主様が見てくださっている自分がいればいいじゃないかと思いい直しました。



姉の志づは静月の経営を始めて数年、明治三五年（一九〇二年）二月、急性肺炎のため突然亡くなってしまった。享年二九歳、貸席の女将として、脂の乗り切ったこれからという時であった。志づには彦一郎という名の一人息子があつた。母親に似て聡明なこの少年を、教祖はわが子のようにかわいがり、後には引き取って養育することになる。彦一郎はやがて気骨の坐つた男らしい少年に成長し、教祖はその将来に大きな期待を寄せるようになった。

志づの死後間もなく、喜三郎は、貸席業は女のする商売であると考えて手を引き、静月の店を売って家作を建て、自分たちは隣り町の築地二丁目二七番地へ移つた。こうして、ひっそりと仕舞屋（商売をしていない普通の住宅）住まいを始めた。一方、教祖は二〇歳を過ぎ、ゆくゆくは父の夢であつた書画、骨董屋の店を父と二人で開きたいと考え、そのための勉強を始めていた。

そのころの教祖は夕食後、片道七、八町（約八〇〇〜九〇〇メートル）の銀座通りの散歩を日課としていた。しかし、これはただの散歩ではなく、沢山並んで

いる夜店を見て歩き、とりわけ古道具屋の店先では品物を手に取つてよく見るのであつた。そうして家へ帰つてから父に、

「今日はこういうものが売りに出ていたが、あれは古くて値打ちものだと思いますが、どうでしょうか。」  
と尋ねたりする。たまには、これと思う良い品物を買つて帰り、家中で、あれこれと批評し合つて、評価を確かかなものにする。そのようにして、しだいに骨董品に対する鑑識眼を養つていったのである。これははやがて、広く美術一般に対する鋭い鑑賞眼・審美眼を培うこととなり、後年の優れた美術品の蒐集、さらには美術館の建設へと結実していく貴重な体験であつた。

教祖は奈良時代以来の日本固有の高度な伝統工芸である蒔絵に興味を持ち、将来は自分の店に自作の品を並べたいと考え、近所の蒔絵職人の所へ習いに行くことになった。後に光琳堂という小間物屋を経営するようになつてから、小間物とは別に、自分の作品を店先に置いて商品としたが、その端緒は、すでにこのころにあつたのである。

築地時代の数年間は、岡田家にとつて暮しに余裕もでき、家庭的にも落ち着いた時代であつた。明治三四年（一九〇一年）、兄・武次郎は妻「すえ」を娶つていた。その後、志づがなくなり、その子・彦一郎と兄



夫婦を含めた一家六人の生活は、細やかな愛情の通う平和なものであった。

教祖にはとくに親しい友人はなかったけれども、父・喜三郎や兄・武次郎とはよく気が合った。喜三郎は若いころから美術を愛し、美術の素養もあつたので、芸術を志す教祖のもつとも良き理解者であつた。

兄・武次郎とは、ときには男同士、議論を戦わせることもあつたが仲が良く、あちこちへ一緒に出歩いた。寄席が好きだつた母・登里を誘つて、落語などを聞きに行つたのもこのころであつた。

下町という土地柄もあつて、教祖は浪曲（浪花節）をとくに好み、風呂の中で心地良くうなることもよくあつた。それを聞いて家族が笑うと、「いいじゃないか、自分が好きでやるのだもの。」と言つて、さらに大きな声でうなるのであつた。

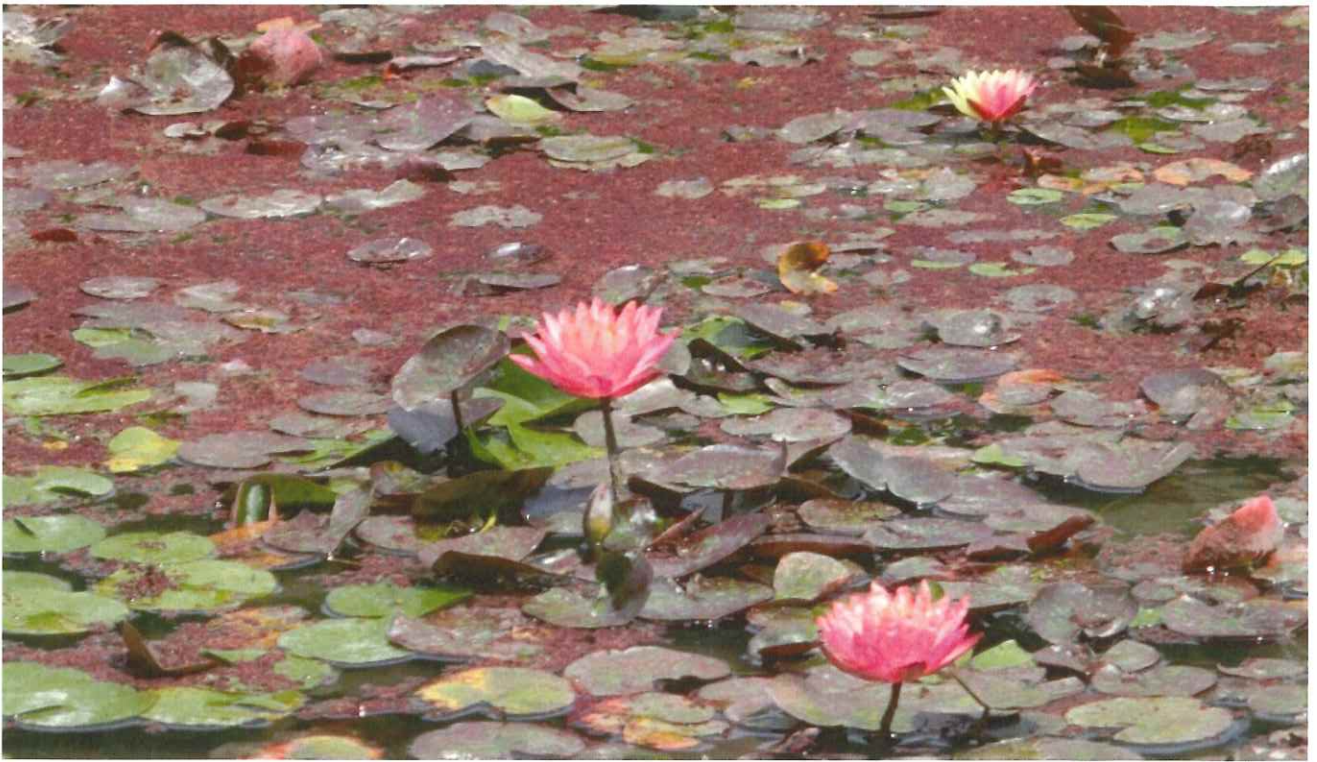
その後、教祖の健康はとくに良くなつたわけではな  
いが、それでも家の中は明るさにあふれていた。相次ぐ病氣、たび重なる失意を経験しながらも、そのたびごとに新しい未来をめざして立ち上がることができたのは、このような、心なごむ、温かい家庭があつたればこそのであつたといえよう。

そういうなかでの楽しみに、寄席とは別に、ときおり映画を見に行くことがあつた。映画のことを、当時は「活動写真」と言い、明治二八年（一八九五年）、フ

ランスのパリで初めて公開されてから、たちまちのうちに全世界へ広まつたのである。教祖は当時のことを、

「忘れもしない私が映画を観初めたのは十六、七（明治三一、二年・一八九八、九年）の時だから、今から五十年位前で先づ最古のファンといえよう。其頃が映画が日本へ入つた最初であつた。勿論一卷物で波の動きや犬が駆け出す所、人間の動作等で、今から思えば実に幼稚極まるものであつた。それでもみんな驚きの目を瞠みはつたもので今昔の感に堪えないものがある。そうして一番最初の劇映画はフランス物で船員が航海から帰宅し、家庭内で何か事件があつたがそれは忘れてしまった。一卷物で単純なものであつた。それ等の映画は浅草公園の電気館といふ粗末な小屋でそれから間もなく説明者が出来たのが、有名な染井三郎（そめいざぶろう）である。」  
と回想している。

（次号へ続く） 『東方之光』（上巻）より  
※文字数の関係で省略箇所があります。詳細は原典を参照下さい。



泥水の中より出でし麗しき蓮の花



蓮の蕾



秋の七草、桔梗



ヒオウギズイセン

聖地NOW

土の聖地・平安郷  
花の世界



藪カンゾウ

## 「子どもの病気は食事で治す」①

高頭 和生

今年五月、名古屋市内の某クリニックの院長とお話をする機会がありました。このクリニックは糖尿病の専門医で食生活改善に力をいれており、栄養士さんが複数名勤務しています。そして発達障害やADHD、引きこもりなどの精神的な問題を抱える子どもたちの治療もされています。院長は、子供たちのこのような疾患の原因に食べ物が大きく関係しているということを、患者さんの血液検査によってはっきりしたと言われます。それは、70人の子供の患者全員の血液検査で遅延型抗体（IgG）を調べたところ、70人全員に、グルテンとカゼインの遅延型アレルギーのあることがわかりました。彼は、牛乳と小麦の取りすぎが大きな原因であると断言していました。近年、発達障害、ADHD、自閉症、アスペルガー、引きこもりなど精神的な障害の子供たちが急増しています。この15年間で小学生が3倍に、中学生が1.5倍に増えたそうです。私の知り合いの小学校教員は、一学年に30名の不登校生徒がおり、個別に向かい合うことができないと言っていました。間違った食の常識によってこのようなことが起きているのだとすると、

これは大きな問題です。

前おきが長くなりましたが、今回は、葉子クリニック長の内山葉子先生著の「子どもの病気は食事で治す」（株式会社評言社）をご紹介します。内山先生は、日々接している患者さんに対して、薬だけでは治らなかつた病気が、食事内容を変えただけで好転する例をいくつもあげています。「身体は食べ物から作られる」というあたりまえのことを、酵素栄養学を活用した食事療法を中心に解説されています。

著書では、戦後の日本では、間違った食の常識によって、さまざまな疾患が増えていること、そして健康を保つための身体の機能、その機能を妨げる食べ物と、正常に機能させるための食べ物、お母さんの妊娠から出産後に気を付けることや3歳からの食事、15歳からの食事といったように、子供の年齢によって適した食事と、医師として疾患に苦しむ子供たちに寄り添い健康に誘うための大切なことが書かれています。

本題に入る前に今回は、序章の「間違えだらけだった『ベストセラー育児書』から牛乳について学びましょう。

明主様のみ教え（「天国の福音」栄養学 昭和22年2月5日）によれば『牛乳について注意しなくてはならないことは牛乳は歯の未だ生えない嬰兒えいじには適しているが歯が生え



てからは不可である。

何となれば歯が生えるということは、もはや固形物を摂取してもいいということであって消化機能が固形物に適すべく発達したからでこれが自然である。したがって、栄養として成人者が牛乳を飲用すれば衰弱するのである。前に述べたごとく食物をあまり咀嚼してさえ衰弱するのであるから牛乳のごとき流動物に至ってはより以上衰弱を来すのは当然である。成人者が牛乳飲用の可否を私に問うごとに私は嬰兒と同様の食餌を摂るとすれば、動作のごときも嬰兒と同様に這ったり抱かれたりしなければならぬではないかと嗟うのである。しかしながら牛乳も食物を美味しくする目的に使用することは結構である。』

著者は、序章の中で、近年、医療の進化がうたわわれているのに、これまでになくアレルギー疾患や多動症などの子供の病気が増え続けている現実、間違った育児があったことをあげています。

一九四九年（昭和21年）にアメリカの小児科医ベンジャミン・スポック博士が育児書を出版しました。世界43か国で翻訳され世界中でベストセラーになりました。この育児書は「母子手帳」の副読本・参考図書となり一般向けの育児雑誌や専門誌の記事などもこの本を参考にしたものが多かったそうです。ところがこの本に書かれた内容は、間違えだらけでした。そこには、「赤ちゃんがおっぱいからの離

乳は三か月が良い」「その後は牛乳からつくった粉ミルクがよい」「牛乳はすばらしいものだ」とありました。わずかな数行の誤った記述のせいで、早々と離乳する母親が増え、未熟な臓器をもつ赤ちゃんに消化できない粉ミルクや牛乳を与えたことから、虚弱なアレルギー体質の子供が急増する悲劇が生まれたと書かれていました。

子供のアレルギーを含めた精神疾患の大きな要因に、代謝がうまくできていないことをあげています。

代謝異常によって、を4つあげています。①、砂糖やカフェインの摂り過ぎ。②、栄養不足。③、食べ物に含まれる食品添加物。④、鉛や水銀などの重金属。をあげています。

食は子供の身体を作ります。味覚や趣向も子供の時期に植え付けられます。成長時の「子供に必要なもの」ではなく、「子供が喜ぶもの」を与えてきてしまいました。忙しく働くお母さんの家事を簡単にするレトルト食品や冷凍食品、コンビニ食の加工食品やファーストフード食品など安価と手軽さを求めざるをえない環境もあります。

戦後、学校給食は輸入小麦で作ったパンと熱処理された牛乳が主体となり日本中に普及しました。西洋への憧れが拍車をかけファミリーストランやハンバーガーショップが全国に展開し、それで育った子供たちが現在は祖父母と

なっています。  
いま一度、私たちが本来必要な食べ物をもう一度見直し、  
子供たちの食を正してゆくことが大切な時なのではないで  
しょうか。

葉子先生の育児本

# 子どもの 病気は 食事で治す



葉子クリニック院長  
内山 葉子

アレルギー  
発達障害  
肥満・糖尿

ADHD・自閉症と  
診断されても  
落ち込まないで！  
薬だけにたよらず  
食事と生活環境を  
変えていくだけでも  
症状が落ち着くのです。

体質と発達にあわせた食養生と酵素食

この連載は「明主様を求める」ひとつの切り口として紹介  
しています。会としてみ教え解釈の固定化を図る意図はありま  
せん。寛容にお読みいただければ幸いです。(編集者)

シリーズ **幸せの種まき** (1) イソップ物語より

子供達の楽しみな夏休みがやって来ました。

今月号から「イソップ物語」を読み合って、各家庭で子供達や孫達に「幸せの種まき会」を開いていただきませう。

「イソップ物語」は、はるか大昔（紀元前600年）から、世界中でもっとも親しまれた本です。動物が主人公で短くわかりやすい内容です。

「コツコツと努力すれば必ず幸せになる」「人を助ければ自分が幸せになる」「ウソをつけば罰が当たる」の三点が書かれています。人生の「幸せの種まき」で、全く明主様のみ教え通りと信じております。

コロナ禍後の現在、家族の会話が少なくなりました。どうかアイスクリームを食べながら、子供達や孫達と楽しく笑いながら、どんな意見でも感想でも、自由に勝手に話し合ってください。十年後、二十年后に子供達や孫達が成長して「幸せの種まき」となることを期待しています。

（参考資料・ヘタな人生論よりイソップ物語 著者 植西聡 河出書房新社）

○アリとキリギリス

♪ 楽をしたツケから逃れることはできない ♪

太陽がカンカン照りつけるある夏の昼下がり、アリが汗をかきながら食料を運んでいると、涼しい日陰で歌ったり踊ったりして遊んでいる一匹のキリギリスと出会いました。お互い、視線が合うやいなや、キリギリスはアリに向かってこういいました。

「アリ君。こんな暑い中、キミはどうしてそんなに一生懸命になって働くんだい？ すこしはボクのようにな、もっと楽しく毎日を過ごしたらどうなんだい？」

「ボクは冬に備えて、いまから食べ物を蓄えているんだ。キリギリス君も遊んでばかりいないで、すこしは冬の準備をしておいたほうがいいよ」

「冬だって？ まだまだ先の話じゃないか。それに食べ物だつ





てこんなになくさんある。あくせく働いているばかりなんて、愚かとしか言い様がないよ」

こういいながら、キリギリスは黙々と働くアリのバカにして笑ったのです。

やがて、夏が過ぎ、秋が過ぎ、冬がやってきました。アリが忠告したとおり、キリギリスは途端に食べる物がなくなってしまう、寒さと空腹で路頭に迷ってしまいました。そして、食べ物も分けてもらおうと、アリのところへいき

ました。するとアリはこういいました。

「キリギリス君、キミは夏のあいだ、ずっと遊び惚けて、ボクが生懸命働いてするのをバカにして笑っていたんだよ。ボクの忠告が、いまになってやっとわかったのかい？かわいそうだから少しだけわけてあげるよ」



《おしまい》

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町26-1 救世会館1階

電話 0557 85 8060

FAX 0557 85 8185

seichicyokketsunokai@outlook.jp



織姫